



ASSESSMENT OF TECHNOLOGY
FOR BUILDING CONSTRUCTION
GBRC FOUNDATION

GBRC 性能証明 第09-19号

建築技術性能証明書

技術名称：ETP-G 工法
一回転貫入鋼管杭工法

申込者：株式会社コクエイ 代表取締役 氏房 信明
岡山県岡山市南区浦安南町16番5号

ジオテック株式会社 代表取締役 中村 義勝
東京都新宿区下落合二丁目3番18号SKビル

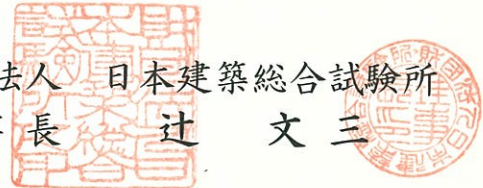
技術概要：本工法は、鋼管の先端に円形の拡底翼と正三角形の掘削補助刃を溶接接合し、この鋼管を回転させることによって地盤中に貫入させ、これを杭として利用する技術である。

開発趣旨：本工法は、施工性の向上を意図して開発したもので、回転貫入時の軸振れを防止するための掘削補助刃を装備するとともに、回転貫入時に大きな推進力が得られるように、拡底翼の一部を切り欠き30°の勾配で上下に折り曲げていることに特徴がある。

当財団の建築技術認証・証明事業実施要領に基づき、上記の性能証明対象技術の性能について、下記の通り証明する。

2009年11月10日

財団法人 日本建築総合試験所
理事長 辻 文三



記

証明方法：申込者より提出された下記の資料により性能証明を行った。

- 資料①：性能証明のための説明資料
- ②：設計・製造・施工基準
- ③：載荷試験資料

資料①には、本技術の目標性能達成の妥当性を確認した説明資料がまとめられている。
資料②は、本工法の設計・製造・施工基準であり、設計フロー、支持力算定式などの設計方法の他、使用材料、杭の製造方法及び品質管理方法、施工方法および施工管理方法が示されている。

資料③には、資料①で用いた個々の載荷試験結果報告書や立会施工試験報告書などが取りまとめられている。

証明内容：申込者が提案する「ETP-G 工法 設計・製造・施工基準」に従って製造、施工された鋼管杭の許容支持力を定める際に必要な地盤の極限鉛直支持力は、設計基準に定めるスウェーデン式サウンディング試験あるいはラムサウンディング試験の結果に基づく支持力算定式で適切に評価できると判断される。